



南極の科学、60周年を祝って

2018年2月5日、南極研究科学委員会(SCAR)は60周年を迎えました。1958年2月3～5日にオランダのハーグで行われた第1回会議から今日までに、SCARの下で社会のための南極科学を実現しようとする目的を共有する何千人もの科学者による、国際的なネットワークとして成長してきました。

43カ国からの委員で構成されるSCARは、南極・南大洋における質の高い国際科学研究の立案、促進、調整に貢献しています。SCARは国際科学会議(ICSU)傘下の学際的委員会として、南極条約協議国会議、気候変動に関する国際連合枠組条約、気候変動に関する政府間パネルといった国際機関に、客観的かつ独立した助言を提供しています。

南極・南大洋には気候や炭素吸収などのプロセスを調節する基本的な役割があり、南極域における研究は地球にとって重要なプロセスを理解し、科学を発展させるために不可欠です。加えて、南極大陸の一部では急速な変化が生じており、今後数十年のうちに大陸で新たなレベルの活動が可能になることすら考えられます。このような南極域のガバナンス、管理、環境保護は、科学データに基づいたものでなければなりません。

1958年の創立以来、SCARは南極域における科学のビジョンと目標を定義する中心的役割を担い、国際的かつ学際的な共同研究を推進することによって、南極科学の実施を促進してきました。科学的助言の提供、機会の発見、共同研究の円滑化は、SCARの基本的ミッションの根幹をなすものです。

SCARのSteven Chown会長は、次のように述べています。「この60年間に南極科学者たちは驚くべき大発見を重ね、変化する世界に対する私たちの考え方もそれによって変わってきました。こうした発見は国際的政策に影響を与え、オゾン層破壊物質の使用禁止や商業活動の管理と併せて、南大洋生態系の保護につながるとともに、気候変動に関する国際的な議論に情報を提供してきました。こうしたことは一国だけでは達成できません。SCARは国際的なリーダーシップを発揮して、南極研究のアジェンダ形成に貢献してきたことを誇りに思っています。」

60年前には、国際地球観測年を機に、国際的な南極共同研究を継続することの重要性に世界が注目しました。今日では、世界各国の政府が協力して気候変動と戦い、その影響に対応しようとしています。SCARは、南極科学に対する協調的な国際アプローチを目指す意思を持続させながら、気候へのグローバルな取り組みについての政府間イニシアティブに情報を提供して新たな道筋の提示を可能にできる最適な立場にあります。

Chown 会長はさらにこう述べています。「南極大陸は急速に変化しています。2017年9月にはラーセンC棚氷から約5,800平方キロメートルの氷山が分離しました。これはラーセンC棚氷が最終的には消失する前触れです。南極半島の氷河の約80%と同様、パイン島氷河は急速な後退を続けています。大陸氷床の融解は、地球の海面上昇の要因となっています。南極大陸は、2100年までに1メートル以上の海面上昇をもたらす、2500年までには13メートルの海面上昇をもたらす可能性があります。」

「南極海の海氷面積は、2016年には1981年から2010年の平均を20%下回るまでに減少し、2017年には同平均を10%下回っていました。食物連鎖のベースにあるプランクトンの殻は海洋酸性化により危機に晒されており、南大洋の食物網に悪影響を及ぼす可能性があります。こうした現在の気掛かりな観測結果を見れば、私たちが人新世のなか旅を続けるうえで、SCARの国際共同研究はかつてなく差し迫ったものになっていると言えるでしょう。」

SCARは60年目に入り、会員の数も1958年設立当初の12カ国から現在は43カ国と大幅に増えています。今や、国際的に認知された影響力を持つ組織として定着しました。この状況は、SCAR会員・機関の支援と併せて、SCAR南極学術コミュニティを構成する数千人の研究者が世界中から参画し支援してきたからこそ可能になったものです。SCARはみなさんとともに、この60周年を祝いたいと思います。

SCARは、2018年6月15日から26日にスイスのダボスで開催される第35回会議、およびオープン・サイエンス・カンファレンス(POLAR2018)の場で、60周年祝賀行事を予定しています。

編集者注 — SCARのミッションおよび活動に関連する詳細は、SCARウェブサイト(www.scar.org)から抜粋またはユーワン・グリフィン(Eoghan Griffin)にメールで問い合わせる(eoghan@scar.org)。